

さいたま市防災カルテ

大谷口中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

- 【位置】南区の東部に位置し、緑区と隣接している。
- 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、北西部には団地、南東部には消防署がある。
- 【交通】学区の中央部にはJR武蔵野線、西部には産業道路が走っている。

◆学区の位置



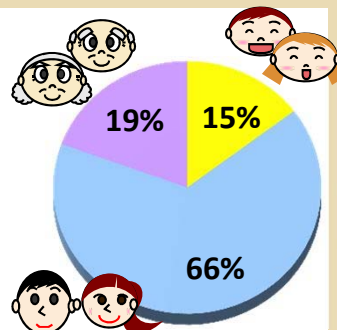
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.3)	6弱 (5.8)	6弱 (5.9)			
最小震度	6弱 (5.9)	5強 (5.4)	5強 (5.4)			
死者	44人 (0.2%)	2人 (0.0%)	3人 (0.0%)			
負傷者	166人 (0.7%)	26人 (0.1%)	36人 (0.1%)			
避難者	6,167人 (24.2%)	333人 (1.3%)	799人 (3.1%)			
全壊建物棟数	1,826棟 (23.8%)	101棟 (1.3%)	195棟 (2.5%)			
うち焼失棟数	1,334棟 (17.4%)	87棟 (1.1%)	166棟 (2.2%)			
半壊建物棟数	1,327棟 (17.3%)	245棟 (3.2%)	408棟 (5.3%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	628棟	0棟	0棟	310棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	大谷口中学校区	全市平均
総人口	25,475人	
人口等		
0-14歳	3,733人 (15%)	(14%)
15-64歳	16,793人 (66%)	(67%)
65歳以上	4,948人 (19%)	(19%)
人口密度	9,175人/km ²	5,766人/km ²



【地震】さいたま市直下地震では最大震度6強となっており、**地区の約40%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の20%弱にあたる建物は焼失**する恐れがある。

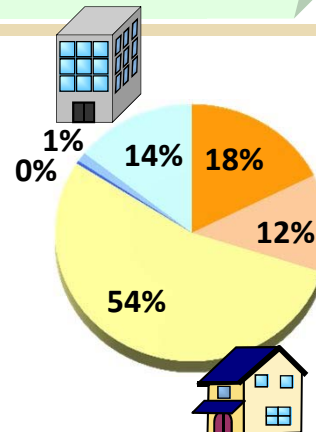
【水害】他の地域と比べ、**相対的には浸水被害の危険性は低い**。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	大谷口中学校、向小学校、善前小学校、大谷口小学校、東浦和公民館、谷田公民館、善前公民館
一時・広域避難場所	大谷口細野公園
市・区役所等窓口	谷田支所
消防署・出張所	東浦和出張所
警察署・交番	
救急病院	
応急給水場所	大谷口中学校、善前小学校

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	大谷口中学校区	全市平均
総建物棟数	7,666棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	1,350棟 (18%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	946棟 (12%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	4,148棟 (54%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	28棟 (0%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	91棟 (1%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,103棟 (14%)	(21%)



◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】多くの建物被害が想定されているため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【避難】人口密度が高い地域のため、**円滑な避難誘導の実施が必要**。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度はやや高い**。

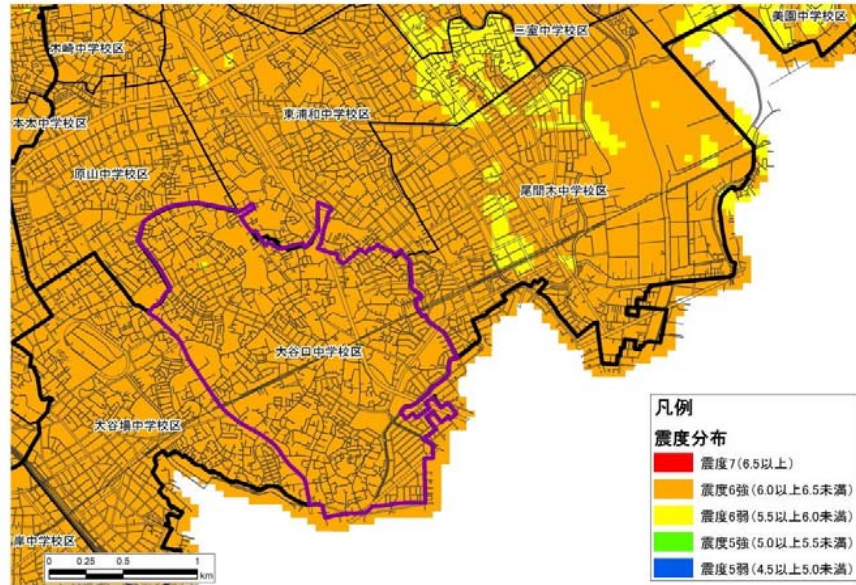
全市平均と比較すると、**新しい木造建物の割合が大きい**。

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

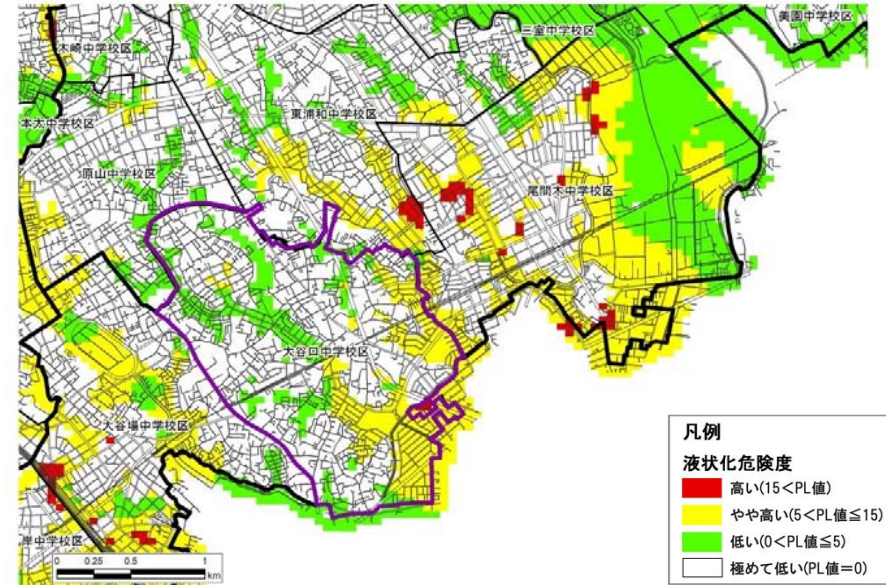
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

大谷口中中学校区

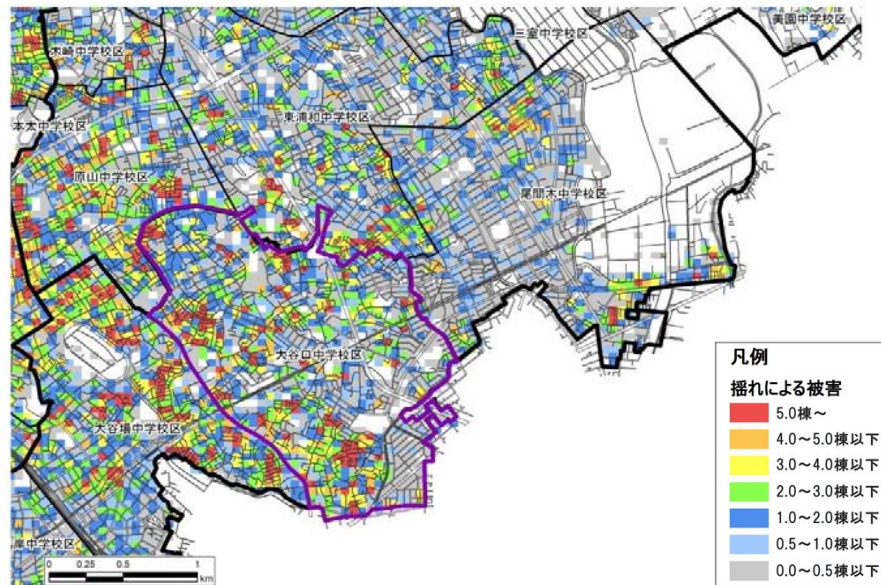
震度分布図



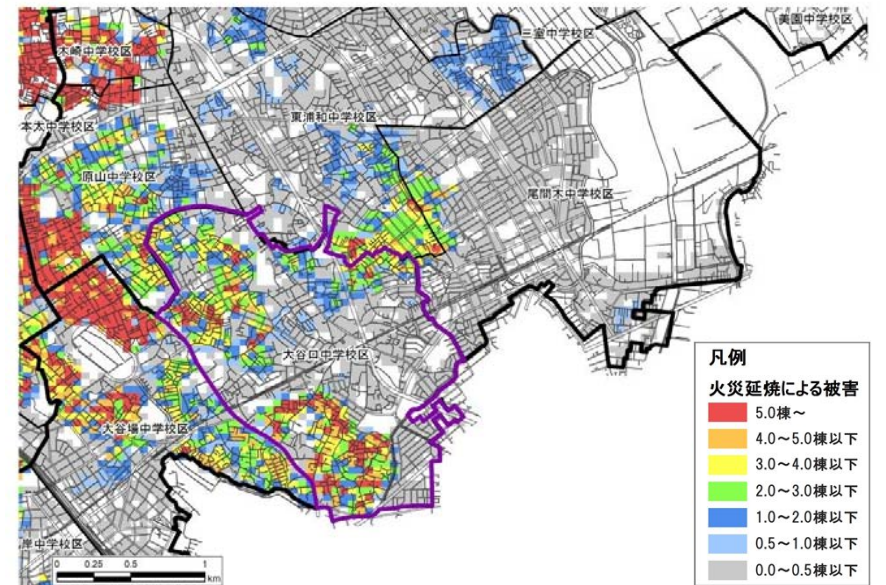
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

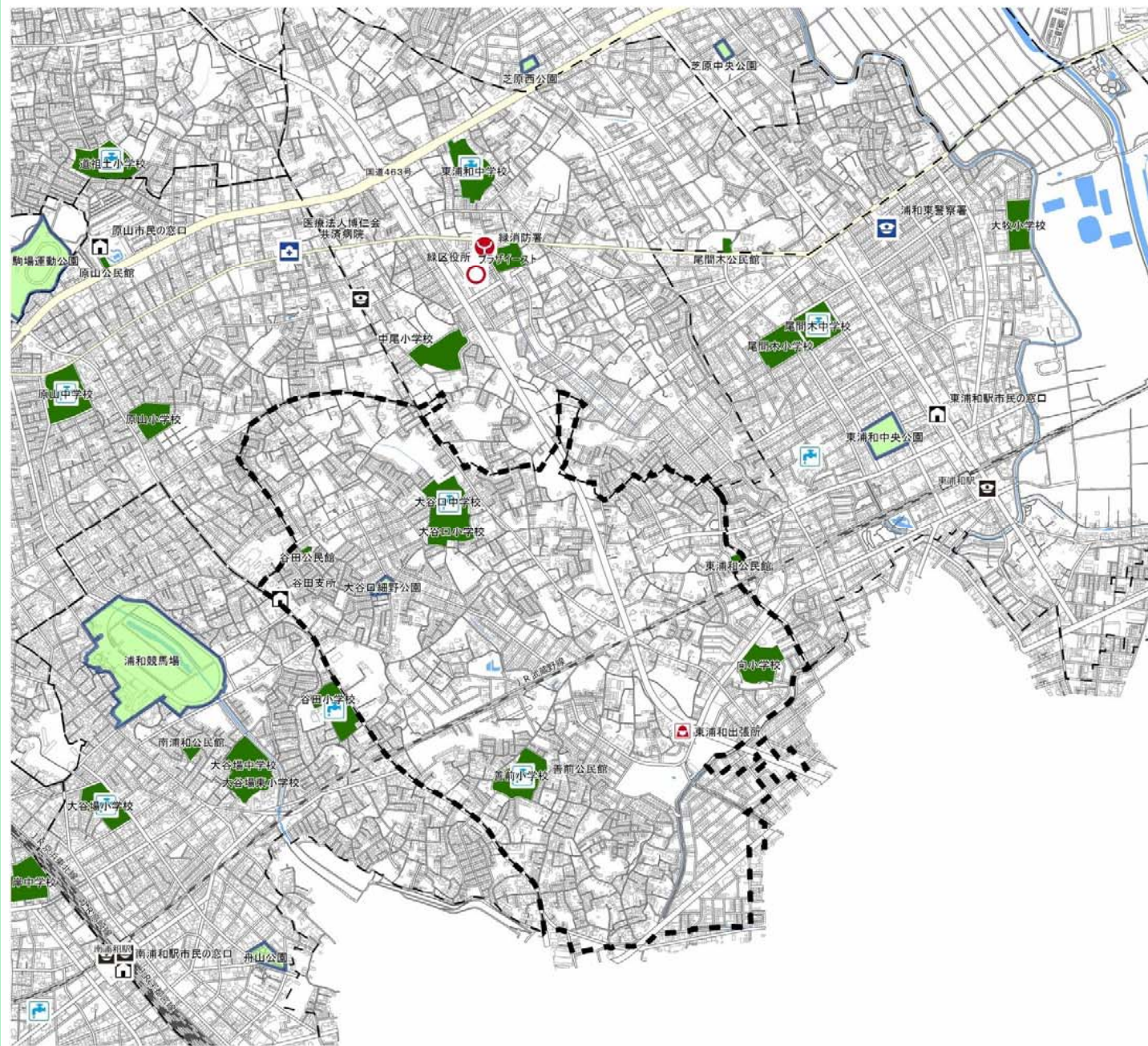


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみよう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

大谷口中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

